

84.8.24

奨学金制度改悪反対斗争の 報告と御礼

残暑の候、ますますご健勝にお過しのこと、お慶び
申し上げます。

さて、すでに新聞等でご存知の通り奨学金の有利
子化等を目的とした日本育英会法改悪案は、八月
一日、自民、民社、新自の賛成により成立しまし
た。

国会では、衆参本会議及び文教委員会において、社
会、共産、公明、社民連、参の会の議員が、全ゆる
角度から法案の問題点、矛盾点を明らかにしました。

法案は残念ながら成立しましたが、我々の運動の成
果として、別紙の通り、「無利子を根幹とする。長期
低利を維持する」等前進的な附帯決議をからしむこ
とが出来ました。

思い返しますと、初めて奨学金有利子化が打ち出さ
れたのが、丁度四年前の「歳出百科」でした。育英労では、
さっさと反対斗争に立ちあがりましたが、以来、「育英
奨学制度の抜本的改悪に反対する連絡会議の結成」「五三方
個人署名、二万三千団体請願署名」「教育賞シンポジウム」
「教育賞が危ない！奨学金制度の灯は消せない」の
出版」と運動を拡げ、展開してまいりました。

私共わずか三四五名のこころ労組が、これ程の大きな
運動を展開し得たのは、ひとえに皆様方の暖かいご支援、
ご協力、ご指導の賜と存じます。

私共は、この運動の中で、多くの人々と出会い、多くの
ことを教えられ、学びました。

結果的には法案は成立しましたが、私共はけっして敗北感を持っておりません。むしろ育英労史上歴史的な斗争と貫徹し、奨学金問題と国民各層にアピールしたことは、大きな成果であったと思っております。

私共育英労は、この斗争で学んだものも今後の労働運動に大いに生かしていく積りですが、この闘いの過程で、奨学金問題は、教育費問題の一角であることを強く認識しました。

わが国の教育費の異常な高騰は、勤労国民にとって、今や限界を超えており、教育費問題の根本的解決は、国民的緊急課題となっております。

教育費問題は、現在、奨学金制度、私学助成、学費値上げ反対等々が個別に運動を進めておりますが、これを一本につなぐ「教育費共闘」のような組織の必要性を感じております。

その意味で、「育英奨学制度の根本的改善に反対する連絡会議」は、当面何らかの形で継続的に存続させ、教育費問題に取り組んでいこうと思っております。

最後に重ねて、四年の長い間、私共にお力を貸して頂き、「指導、ご鞭撻を頂きました皆様方に対し、心から感謝の意を表すると共に厚く御礼申し上げます。

本来なら、直接参上のうえ、この間の報告と御礼を申し上げるべきですが、取り急ぎ書面をもってかえさせていただきます。時節柄ご自愛のほど切に祈り申し上げます。

一九八四年八月五日

日本育英会労働組合

中央執行委員会

委員長 柳沢 淳